

日本の侵略にほんろうされた柳さん

日本軍の通訳

中国・八路軍兵士

植民地下の朝鮮で生ま 東浩(ユ・ドンホ)さん
れ、日本軍の通訳から抗日(モ)を、神戸の朝鮮史を
ゲリラの捕虜、さらに中国 学が市民グループ「むく
共産党八路軍の兵士とな げの会が日本に招いた。
り、独立を目指し戦った柳 十二日午後三時には神戸

市灘区山田町の神戸学生 えられ革命教育を受け八路
青年センターで講演会が 軍に加わった。
開かれる。
柳さんは、開城の貧し ビラをまき、日本軍の電話
い朝鮮人の家に生まれた 回線を盗聴、植民地下で教
が、十七歳の時、ひとり え込まれた日本語を武器
中国に渡った。しかし、
朝鮮人に仕事はなく、日
本軍の通訳になるが、半
年後、抗日ゲリラに捕ら

に日本軍と戦い、その後、
共産党の中国東北解放戦争
にも参加した。
パルプ工場を定年退職
した柳さんは今、中国・
延辺朝鮮族自治州に住み、
私立大学で日本語の指導
にあたっている。中国で抗
日戦を戦った朝鮮人の研究
を掲載した雑誌で「むく
げの会」の存在を知った
柳さんが会に連絡。その
一通の手紙から交流が始ま
り、会員が訪中するなど
している。

神戸の市民グループ招く



民間交流で初来日した柳東浩さん(神戸学生青年センター)

激動の生い立ち語る

12日に 友好に役立ちたい
講演会

若い柳さんが家を出たの
は、日本占領下の故郷の生
活に絶望、民衆の立場で社
会を描いたロシアの作家ゴ
ーリキーにあこがれ、放浪
の作家を志したから。その
ゴリキーも日本語訳だっ
た。青春時代の思い出と重
なり、柳さんの日本への思
いは複雑だ。
「今は日本との友好交流
に役立ちたい」と柳さん。
講演では、中国での抗日戦
線の様子など激動の生い立
ちを語る。参加費五百
円。詳しくは神戸学生
青年センター ☎078
・851・2760
で。

ひょうご

県域版

本社 社会部
電話 5078
(232) 7733
経済 編集部
電話 50792
(81) 1125
原 神 局
電話 50798
(33) 5541
明 石 局
電話 5078
(812) 4343
淡 路 局
電話 50799
(22) 1277
栗 橋 局
電話 50794
(22) 2073
北 橋 局
電話 50795
(42) 5656
但 馬 局
電話 50796
(22) 3121
丹 波 局
電話 50795
(72) 0540